

ごあいさつ「清く 正しく 明るく」

福島県立視覚支援学校の Web サイトにアクセスいただき、ありがとうございます。

「清く 正しく 明るく」は、本校の校訓です。シンプルで力強いこの言葉からは、さわやかで素敵な人物像が浮かんできませんか？

私たちは、そんな人育ての理想のもとに教育を行っています。

本校は、明治 31 年に渋木重庵、高橋金七、長沢正太郎氏らのご尽力により、福島第一尋常高等小学校の一部に、私立福島訓盲学校として創立されました。その後、昭和 19 年に県立移管されて福島県立福島盲啞学校となり、数度の名称変更を経て現在に至っています。

今年 123 年目の歩みを進めている本校では、小学生から成人までの児童生徒 28 名が、より豊かな社会参加と自立をめざして、日々の学びを重ねています。

視覚支援学校は、「見え方」に困難のある人が学ぶ学校です。

私たちは、一人一人の「見え方」や「情報のとり方」に配慮しながら、児童・生徒だれもが本来持っている力を引き出すとともに、社会の一員として、生き生きと自分らしく、主体的に生きることのできる力の育成を目指し、小中学校や高等学校に準じた学校教育と、あんま・マッサージ・指圧師、はり師、きゅう師の国家資格の取得を目指した職業教育を行っています。

その中でも、私たちは、次の 3 つを重点として教育を進めています。

- 1 「深い学び」の実現のための授業改善
- 2 「豊かな人間性と社会性」を育成するための体験活動や交流及び共同学習の推進
- 3 「自分の心と体を守る力」をつけるための健康教育推進と関係機関との連携

人は誰もが、かけがえのない存在です。

私たち教職員は、児童生徒を尊重し、権利を守ります。

そして、視覚障がい教育の専門家としての自覚をもって研鑽に励むとともに、障がいのある方が、その持てる力を十分に発揮できるように、教育の充実と社会の醸成に力を注ぎたいと考えております。

視覚支援学校は、視覚障がい教育の専門機関です。

目に障がいのある児童生徒が、豊かな生活を送るための、適切で効果的な教育を行うことができます。また、乳幼児の養育・子育ての不安や、事故や病気によって見え方に不安が生じた成人の方の、生活や社会自立に向けた相談などにも応じています。いつでも、学校にご連絡ください。

今後とも、福島県立視覚支援学校に、ご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

令和3年 4 月

福島県立視覚支援学校長 橋本 淳一